

2009年7月28日 電話会議

2010年3月期第1四半期業績概況資料

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

広報IR部 田中 久

TEL: 03-3248-2235

E-mail: tanakah@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

2010年3月期第1四半期連結業績と第2四半期・通期業績見込

単位:億円 (未満切捨て)	第1四半期		第2四半期(累計)			通期		
	実績	前年同期間 比増減	(E)	前年同期間 比増減	前回(E) 比増減	(E)	前年同期間 比増減	前回(E) 比増減
売上高	1,104	-90	2,244	-184	-161	4,581	-164	-233
営業利益	36	-12	76	-14	-	166	+14	-
経常利益	33	-13	67	-19	-	145	+3	-
当期純利益	21	+4	38	-1	-	77	+16	-
EPS(円)	7.1	+1.6	12.3	-0.5	-	24.8	+5.4	-

注:(E)は今回発表した見込、前回(E)は5月12日に発表した見込。

1.売上高

- ① 全体では8%の減収。前年と比べ消費の不振や単価の下落など景気後退の影響が顕著に現れた。セグメント別では新型インフルエンザの影響も受けた畜産や低価格品への消費の移行で数量・単価とも下落した水産の減収幅が大きい。加工食品も業務用の不振が響いた。こうした状況を反映し第2四半期目標は161億円の下方修正、通期目標は233億円下方修正する。

2.営業利益

- ① 売上高の減収に伴い12億円の減益だが、全体では2Q累計目標に対して想定どおりの進捗となっている。加工食品が目標未達なのに対して、低温物流は地域保管が依然前年を上回り目標を超える進捗。大口取引先の民事再生手続き開始で不良債権が発生、1億円を貸倒れ処理。
- ② 加工食品は売れ筋が低価格商材に切り替わった惣菜向け商品の売上減が主因で4億円減益。
- ③ 全体としては2Q累計・通期目標は前回予想を据え置く。

3.経常利益・当期純利益

- ① 前年に計上されていたリース会計基準変更時差異がなくなり、特別損益は18億円の改善。

2010年3月期第1四半期セグメント別売上高・営業利益と第2四半期累計・通期見込

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	第1四半期				第2四半期(累計)				通期					
	実績	前年同期間比		(E)	前年同期間比		前回(E)比		(E)	前年同期間比		前回(E)比		
		増減	率		増減	率	(E)	増減		増減	率	(E)	増減	
売上高	加工食品	429	-22	-5%	877	-24	-3%	904	-27	1,724	-16	-1%	1,774	-50
	家庭用調理品	121	0	0%	239	2	1%	239	0	471	10	2%	470	1
	業務用調理品	206	-14	-6%	413	-18	-4%	440	-27	834	-35	-4%	884	-50
	健康価値	24			55			58	-3	102	2	2%	105	-3
	その他	79			170			167	3	317	7	2%	315	2
	水産	162	-30	-16%	334	-61	-15%	374	-40	690	-71	-9%	761	-71
	畜産	195	-30	-13%	395	-75	-16%	480	-85	865	-60	-7%	950	-85
	低温物流	343	-9	-2%	699	-23	-3%	709	-10	1,420	-3	0%	1,447	-27
	物流ネットワーク	183	5	3%	377	14	4%	386	-9	772	50	7%	796	-24
	地域保管	115	1	1%	234	0	0%	228	6	462	0	0%	451	11
	海外	40	-17	-30%	81	-38	-32%	87	-6	163	-60	-27%	175	-12
	その他・共通	5	3	100%	7	2	28%	8	-1	22	6	37%	25	-3
	不動産	18	-2	-12%	36	-2	-5%	35	1	70	-4	-5%	70	0
	その他	16	-1	-3%	33	1	4%	32	1	69	3	4%	69	0
	全社または消去	-60	3	—	-130	-1	—	-129	-1	-257	-13	—	-257	0
合計	1,104	-90	-8%	2,244	-184	-8%	2,405	-161	4,581	-164	-3%	4,814	-233	
営業利益	加工食品	4	-4	-51%	16	6	59%	19	-3	41	21	103%	44	-3
	水産	1	-4	-83%	1	-7	-87%	1	0	4	1	45%	4	0
	畜産	2	-2	-55%	3	-4	-55%	3	0	7	7	-2433%	7	0
	低温物流	19	-2	-8%	38	-6	-13%	36	2	78	-4	-5%	76	2
	物流ネットワーク	5	0	-9%	11	1	9%	11	0	25	6	33%	25	0
	地域保管	14	2	19%	25	1	4%	22	3	48	-1	-3%	43	5
	海外	2	-3	-53%	5	-6	-54%	6	-1	8	-8	-49%	11	-3
	その他・共通	-2	-1	—	-3	-1	—	-3	0	-3	-1	—	-3	0
	不動産	9	-2	-15%	18	-3	-13%	18	0	36	-4	-11%	36	0
	その他	1	0	4%	0	-1	-100%	-1	1	0	-2	-100%	-1	1
	全社または消去	0	1	—	0	-1	—	0	0	0	-4	—	0	0
	合計	36	-12	-25%	76	-15	-16%	76	0	166	15	10%	166	0

1.加工食品

- ① 売上げは前年比5%減収。家庭用調理品は餃子事件からの回復基調にあり、アイテムカットの減収要因をクリアして前年並みで推移する、業務用調理品は惣菜売場で低価格化の進行と販売不振が顕著になり6%減収となった。
- ② 採算面では家庭用が餃子事件後の他社とのシェア差を維持、前年より増加はしたが販促費用の抑制を継続、NB商品中心に価格を維持、収益を確保。業務用ではチキン加工品が前半期と比べ回復傾向に、原材料価格低下で採算も改善した。一方で惣菜売場向けの不振が採算面での目標未達の主因に。貸倒損失処理1億円や退職給付費用の増加もあり前年比で4億円の減益となった。
- ③ チキン加工品でタイのOEM先との取引を7月中止、タイの子会社での増産や中国産の回復でカバーする。今後品質や原価面での安定が期待できる。
- ④ 通期予想で売上高を50億円下方修正、2Q以降低価格商材の導入など拡売策は取るが、惣菜向けの不振を反映、また、OEM取引中止によるチキンの供給量不足約20億円を織り込む。営業利益は1Qの進捗遅れ分3億円減額修正。

2.水産

- ① 売上高は前年比16%の減収。外食業態向けの不振など業界環境厳しく、販売数量で8%、単価で6%低下。採算面では割安感の強いえびが貢献して営業利益1億円を確保、絶好調であった前年からは4億円の減益ではあるものの計画通り進捗。
- ② 通期予想は売上高を71億円減額し、市場環境を反映するが営業利益は据え置く。

3.畜産

- ① 売上高は前年比13%の大幅な減収。新型インフルエンザによる一時的な豚肉の不振と、前年と比較した鶏肉市況の下落の影響が大きい。採算面では、鶏肉市況は回復傾向にあり、収益を最優先し慎重な買付を行った結果、2億円の営業黒字となった。
- ② 通期予想は売上高を85億円減額修正する。

4.低温物流

- ① 全体では好調な地域保管が為替換算と景気の影響で悪化した海外をカバーし2Q累計目標に対して想定を上回る進捗ペース、前年比2%の減収、2億円減益。
- ② 物流ネットワーク: 売上げは前年比3%増収だが目標には未達、当社冷蔵の減収や通過型センターで売上算定根拠となる通過金額がスーパーの販売単価低下を反映し減少採算面にも影響し営業利益も若干減益。
- ③ 地域保管: 売上げは1%増収。地域に密着した集荷活動の継続により在庫率維持し2億円の増益となった。
- ④ 海外: 売上げは30%の減収。欧州事業は為替の換算で前年比23%減の影響、事業面ではロッテルダム港湾以外の拠点で物量の減少が顕著、輸配送の売上減少などの影響も受け営業利益は3億円の減益。
- ⑤ 通期予想は物流ネットワークの売上未達を織込み、売上高は27億円の下方修正、営業利益は地域保管が在庫水準を維持し底堅く推移できていることを反映して2Q累計目標に対する上振れ分2億円を増益修正する。

5.その他

- ① バイオサイエンスで新型インフルエンザの影響で検査キットの販売が拡大し1億円の増益要因に。

2010年3月期第1四半期連結バランスシートの変動要因

単位: 億円(未満切り捨て)

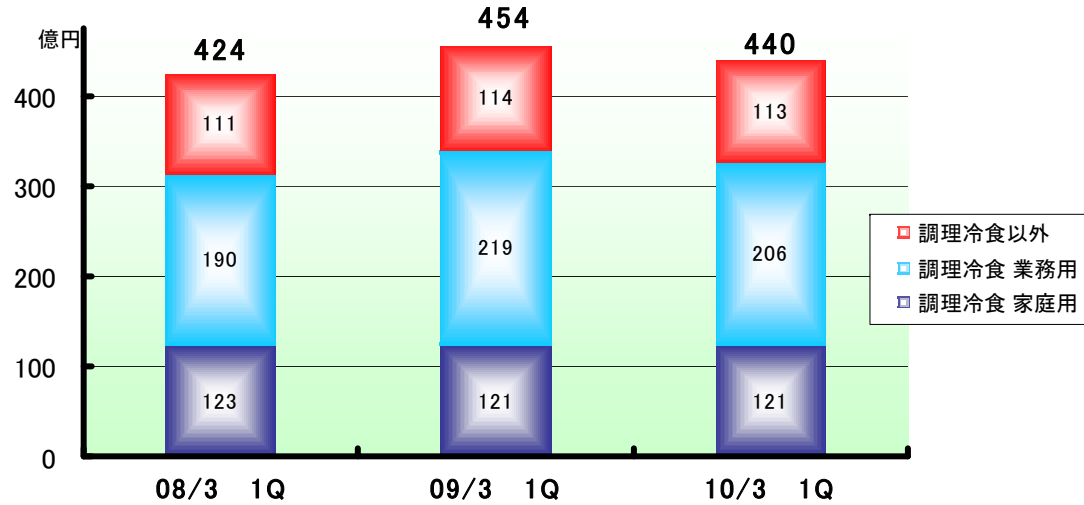
科目	09/6	09/3	増減	
〔資産の部〕				
流動資産	1,134	1,165	-31	①
固定資産	1,733	1,707	+26	②
資産の部合計	2,868	2,872	-4	
〔負債・資本の部〕				
流動負債	1,079	1,115	-36	③
固定負債	631	625	+6	
負債の部合計	1,711	1,740	-29	
純資産の部	1,156	1,131	+24	
(うち株主資本)	1,103	1,097	+6	
有利子負債	1,057	1,104	-47	③
(うちリース債務除く)	825	879	-53	
科目	09/6	08/6	増減	
設備投資額	52	39	+13	④
(うちリース資産除く)	36	35	+1	
減価償却費	32	33	-0	
(うちリース資産除く)	23	23	-0	

【主な要因】

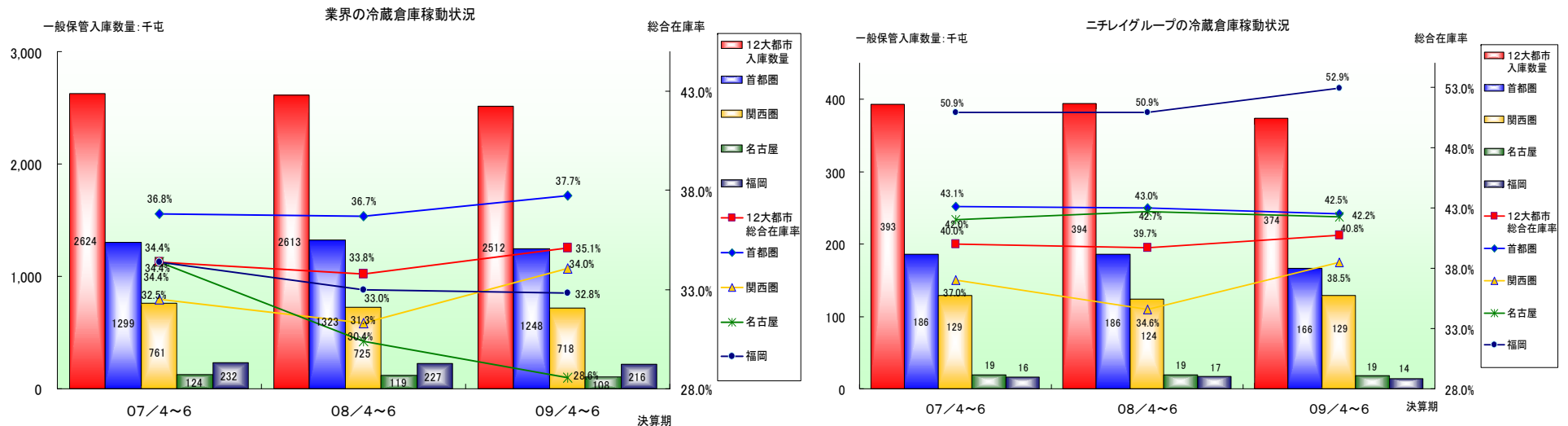
- ① 期間の売上高増加により売掛金が22億円増加、需要期に向けた水産品の在庫積み増しやチキン製品の在庫増でたな卸資産が20億円増加、09/3に今期の返済・償還資金の前倒し調達で増加した現預金を長期借入金の返済に振向け、流動資産全体では31億円の減少。
- ② 固定資産は地域保管の建設仮勘定16億円やリース資産7億円などの設備投資に伴う有形固定資産が増加。
- ③ 流動負債は事業会社の運転資金等で短期借入金が49億円増加したが、一年内返済予定の長期借入金の返済があり119億円の減少。有利子負債の減少も長期借入金の返済が進んだことが要因。
- ④ 第1四半期の設備投資の主なもの
低温物流 栃木TC、北港DC、福岡東浜DC
加工食品 ベジポート(青果物流通センター)

参考データ

冷凍食品売上高の推移 (日本冷凍食品協会定義にもとづき、加工食品のほか水産畜産の売上も含む)



冷蔵倉庫の稼働状況 (業界は日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)



* 08/3期より12大都市に追加された札幌石狩地区、名古屋尾北地区は時系列比較の為対象に含めていない

当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。